



## 今月のトピック

### 第一回南郷トマト講座開催

去る1月18日に、第一回南郷トマト講座が南郷開発総合センターで開催され、新規栽培者9名を含む84名の栽培者が参加しました。

ここ数年、南郷トマトでは果実の尻腐れや裂果が多く、これらをできるだけ出さないで反収を上げることが栽培上の課題となっています。そこで、土づくりやトマト栽培の基礎、かん水技術についてもう一度初心に戻り見直す必要があると考え、毎年土壌診断を依頼している経済連農業技術センターの館川洋先生から「土づくり」についての指導を受けました。土壌分析結果から見たトマト圃場の土壌の様子や上手な堆肥の利用の仕方、土壌改良の仕方について懇切丁寧な説明が先生からありました。参加した栽培者は、自分の土壌分析結果と照らし合わせながら、積極的に質問などを交わしていましたが、南郷トマト産地を支えているこうした栽培者1人1人の熱意が会場に満ちあふれていました。



更なる南郷トマト産地拡大を目指して

今後第二回目を2月14日に、第三回目を3月上旬に開催を予定しています。平成14年には南郷トマトは栽培戸数135戸、面積3.4haになる見込みで、ますますパワーアップします。新しく南郷トマトを始める方も、ベテランの方も、ともに肩を並べ、来年度の南郷トマト栽培に向けて一緒に勉強しましょう。(農業普及部)

### 健全な食生活を推進しましょう



ユーモアあふれる畑中先生の講演

料理指導家畑中成純先生の講義などを受講しました。2月18日には田島町中央公民館で、2月22日には只見総合開発センターで各「食生活指針普及ボランティア」が講師となり、「健全な食生活推進研修会」を開催いたしますのでご参加下さい。

1月11日、郡山駅前「ビックアイ」に県内各地の「食生活指針普及ボランティア」20名が参集し、県農林総務課主催の「平成13年度食生活指針普及定着活動研修会」が開催されました。

これは、近年のライフスタイル等の変化に伴う生活習慣病の増加や食べ残し等による食品廃棄物の増加などの問題に対し、日本型食生活の見直しによる望ましい食料消費と食生活の改善を図る「食生活指針」を広く県内各地に普及させる「食生活指針普及ボランティア」の研修会として開催されました。

南会津からは、田島町の馬場イネ子さん、下郷町の佐藤素子さん、只見町の菅家紀子さんの3名が参加し、「KIRIN ビアとも！クッキング」(テレビユー福島：毎週木曜日夕方6：45ごろ～)でおなじみの家庭

(地域農林企画室)

### 第一回南会津地方農産物直売セミナー開催

1月22日、南会津農林事務所とJA会津みなみの共催で、管内の直売グループ等50名の参加のもと第一回南会津地方農産物直売セミナーを開催しました。

「直売所での衛生管理と加工食品販売のポイント」と題して、南会津保健所衛生課の佐藤文俊主任獣医技師を講師に招き、衛生管理の徹底と、加工食品を販売する時に食品衛生法に基づく営業許可が必要な食品等の具体的な話を聞きました。参加した人達は、今年の春から直売に加工食品を検討したいと意欲的でした。

なお、第二回目は2月19日午後よりJA会津みなみ本店を会場に「直売所で人気の野菜づくりのポイント」を開催します。午前中には南会津地方農業経営者セミナーも開催しますので、是非ご参加ください。(農業普及部)



直売は衛生管理が重要!

## この人を知りたい

# 紀（木の）温もりを伝える技

田島町東町 紀 治男きの はるおさん

「私より他にもっとすばらしい人がいるんじゃない」と取材を申し込んだ時の紀さんの第一声でした。

紀さんは、田島町にある紀木工所の店主として、主に「くりもの」を作っている木工加工業を本職としながらも、南会津特産のそばを打つ名人としても活躍している方で、根っからの職人気質の持ち主です。

平成10年3月には、紀さんを含む田島町の製材・木工会社4社（現在は3社）で町おこしグループ“南会津工房『き』”を結成し、南会津の広葉樹、ブナやナラ、トチ、ケヤキなどを使い、木そのものの持つ温もりを生かし、本業のかたわら、子ども達が山奥に息づく大自然と語りあえるよう願いを込めたおもちゃ作りをしています。塗料を一切使用しない手作りおもちゃは安全で安心出来ると大変評判が良く、更に新商品の開発に力を入れたいと意気込みを語ってくれました。



手際の良いそば打ち

おもちゃは首都圏の大手百貨店で販売し、その売り上げの一部を南会津地方での植林や育林の費用に充てるなど、森林保護と林業の活性化、都市との交流にも一役を買っています。

もう一方の仕事？のそば打ちでは、今でこそ名人といわれる紀さんですが、以前から本業としてこね鉢等を作っていたものの、実際にそ

そばを打ったこともなく、当初は奥さんにそば打ちを教えてもらっていたといいます。それからそばの魅力に



とりつかれ、遊休農地を借りて、そば打ちの仲間とそばを3haも栽培するまでになりました。さらに、そば打ち技を磨いて平成11年素人そば打ち茨城大会では2位に当たる優秀賞を受賞し、南会津では3人しかいない最高位の3段を取得、地域のそば打ち教室などでも指導を行ってきました。

昨年、東京浅草で開催した「南会津そば打ち名人出前講座」では、南会津を代表するそば打ち名人の1人として、首都圏の人に南会津産そばのおいしさをPRしていただきました。

そば打ちは本業の木工品にも生かされ、そばを打つ人が使いやすいものを常に考えているそうで、中でもこね鉢用の脚は、紀木工所の人気商品の一つとなっています。

「あくまでもそば打ちは趣味の範囲。楽しみながら、みんなで美味しいそばを食べるのが1番」と話しますが、誰が見てもそれは名人技。冒頭の言葉でわかるように控えめに話す紀さんですが、南会津の林業とそばの活性化に対する熱意は、紀さんの作る木工品やそばと同様に温もりとやさしさとともに伝わってきました。

(地域農林企画室)

## ひとくち普及情報

### りんどう県育成品種「ふくしまかれん」

ピンク系りんどう「ふくしまかれん」は福島県が育成したオリジナル品種で、昨年度より種苗が供給され、りんどうの主産地である当地域では、約4万本の苗が導入されました。「ふくしまかれん」は生育旺盛で、2年目から収穫が可能です。

当地域では、出荷計画を大きく上回る197千本が9月下旬から10月上旬にかけて初めて市場に出荷されました。

「ふくしまかれん」のネーミングのいわれは、「若々しく、可憐で、たおやかな花色、花姿」でイメージされたものです。

そのイメージのとおり淡く鮮やかな花色で、また側枝や着花数が多く、他の花とのアレンジがしやすいなどの理由から市場評価が高く、販売単価にも反映されました。

開花期は9月下旬からで、当地方の主要品種に比べ、彼岸の需要期よりやや遅れますが、病害虫に強く生育が旺盛であることから、次年度より促成栽培に取り組む生産者も見られます。

りんどうは現在、厳しい市場情勢となっていますが、「ふくしまかれん」をはじめオリジナル品種導入が契機となり、産地発展に繋がるのが期待されます。



まさに可憐な花姿と色

(農業普及部)

## 小豆温泉せせらぎオートキャンプ場

伊南村農林課

近年における国民の余暇活動の増大、自然志向の高まりなどを背景とし、低廉な宿泊施設、観光・レクリエーション施設等の整備を求める声は、村内でも日増しに高まり、とりわけ家族連れを中心としたキャンプ場の普及と需要が拡大し、その受け皿となる施設を整備する意義は非常に大きいものでありました。

小豆温泉せせらぎオートキャンプ場の規模は42サイトで、Aサイト（電源・水道付き）が4,000円、Bサイト（電源付き）3,000円、フリーテントサイトが1,500円の3タイプがあり、管理棟、サニタリーハウス、炊事棟、コインランドリーなどを設けた本格的オートキャンプ場で、キャンプ用品等もレンタルできます。5月の連休から10月末まで6ヶ月間営業し、2ヶ月前から予約を受け付けております。またキャンプ場近くにある小豆温泉窓明の湯が割引になり、温泉で疲れを癒すこともできます。

キャンプ場の整備にはとにかく「自然のまま」を意識し、立木は可能な限り残すように努めました。このため、キャンプサイトや場内道路以外のところはそっくりそのまま残しましたので、起伏に富み、自然を十分楽しめるキャンプ場になりました。管理棟、サニタリーハウスそして炊事棟の施設内の建物はすべて木造で、国内産のスギを使用しました。また、キャンプ場内に設置したベンチは、すべて村内のカラマツの間伐材を使用し、国内産木材や間伐材の利用に配慮しました。また昨年にはふるさと林道緊急整備事業により「せせらぎ橋」が完成し、国道からのアクセスも良くなり

ました。

伊南川とその支流に囲まれたこのキャンプ場は、ブナやナラなどが美しい森林内にあることから、自然



美しい自然の中でのキャンプは最高！

環境は抜群で昨年度は約3,000人、本年度は約4,100人と利用者も増加し、キャンプなどによるアウトドア体験、水と親しむイワナつかみ取り、様々なイベントを通して都市と山村との交流の場として、地域の活性化につながっています。

今後は、キャンプ場周辺にある高畑フィッシングパーク、小豆温泉、花木の宿、高畑スキー場とともに、森林をはじめとした豊富な自然を最大限に活用し、伊南村らしい地域づくりを進めていきたいと思っております。

日頃の慌ただしさを忘れ、伊南村の美しい自然の中でゆったりと時を過ごしてみてもいいですか。

所在地：伊南村大字大桃字平沢山

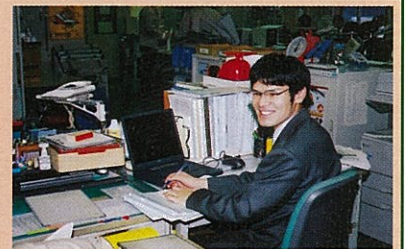
TEL 0241-76-7750

## 新人の 想い

### 南会津農林事務所に配属されて

企画部総務課 坪井 崇

(平成13年度新規採用 福島市出身)



皆さんがこの文章をご覧になる頃には、厳しい寒さに耐えながら暖かい春の便りをじっと待っていることと思いますが、ここ南会津でもおそらく1~2mという積雪量と零下10℃に迫ろうかという大変な寒さによる厳しい冬が続きます。

私の南会津勤務が決まったのが今年の3月下旬。実は大学の卒業式の前日でした。慌てて転居の手続きを行い駆け足で田島へと向かいましたが、途中、車窓風景の渓谷美と色合い豊かな木々とのコントラストが抜群に良かったことが印象に残っています。その後管内各地を歩き回りましたが、南会津は現在数少ない「日本の原風景」とでも言うべきものが残っており、訪れる人々に安らぎを提供する「癒しの空間」であるということを実感いたしました。

こうした豊かな自然環境に囲まれながら、県職員になりはやく1年が過ぎようとしています。この間を振り

返してみると、実に多くの人々にお世話になったことが思い返されます。私に初めて与えられた仕事は旅費支給事務でしたが、発議書の書き方すら知らない私に周りの先輩方は、仕事の手を休め、さらには執務時間が過ぎてでも丁寧に指導してくださいました。また、旅費関係予算の執行管理については各部との調整が遅れ、予算の執行残高が底をつきかけた頃になって初めて対策を講じるという失態を犯したこともありました。多くの上司並びに本庁の方々のご協力・ご支援により事なきことを得ることができました。大変ありがとうございました。

このようなことを経験しながらも、少しずつですが仕事をこなせるようになっておりましたが、新年度から仕事の量が増える可能性があり、身にのし掛かる責任も非常に重くなりそうなので、身を締めつけてゆきたいと思っております。

## 今年は一休何戸の木造民家が姿を消すのだろうか

スクラップ&ビルド、そこには時代に合わなくなった古いものを壊し、新しい価値観に基づいたものに作り替えるというなんとなく現代にマッチしたように聞こえるが、一方では情け容赦なく、冷たい響きも感じ取れる。

昨年は南会津地方全体の住宅着工戸数は151戸であった。全くの新規着工住宅も含まれようから、スクラップ&ビルドされた戸数はその数を下回るが、古い木造住宅がそれだけこの南会津地方から姿を消したことになる。右肩上がりの経済成長の時代でなくとも、南会津の風土の中で長い年月を経て形作られてきた田園風景、そのまん中にどっしりと建つ木造民家をこういとも簡単に過去の遺物として葬り去ってしまっているものだろうか。古いものを大事に使う美德を失っては、これから観光客でなくても南会津のどこに山里としての魅力を見いだせばいいんだろう。観光で飯を食べていくのであれば、南会津の風景に溶け込んだ古くからの木造建造物保存にそれなりの手だてを講じるのは当然必要だと思うのであるが・・・

ある城下町では都市計画による道路拡幅工事が終わってみれば、道沿いに建てられた建物はおよそ城下町として似つかわしくない、景観の統一性のなさを嘆く声は今でも方々から聞こえてくる。観光客誘致のために別の通りでは町並み保存の運動をやっているというのではないか、何をかいわんやである。

せめてこれからは南会津の住宅着工戸数の半数位は大きな構造部分を変えずに改造する道を選ぶことは出

来ないものだろうか。南会津地方の景観にしっとりとしてけ込む木造民家を後生にまで残す手だてを今考えずにいつ考えるのだろうか。現状の姿を維持するための改築費用の一部助成する基金造成とか、南会津挙げて取り組むことは出来ないか。たとえ新築するにしても南会津の自然環境と調和した地元材をふんだんに使ったモデル住宅などの提案はその筋の業界から出ないものだろうか。

今、農産物では地産地消と言って三里四方でとれたものを食する運動が全国各地で静かに起きていると言うが、山の本だって同じことではないか。昔と同様に地元で大きく育った杉の木を使って家をたてる、地元の木を使ってもらえるから山の手入れにも力が入る、山が手入れされるから山が守られる。外材が安いからと言って外材にばかり頼り切っていたのでは、地域経済はますます縮小せざるを得なくなってしまう。山の木が二束三文にしか売れないから山の荒廃が進むという悪循環をどうやって断ち切ったらいいのだろうか。

ここまで書いたら、遠くからこんな声が聞こえてきた。「住んだこともないよそ者に古い木造民家の不自由さの何がわかる。」そんな声に全てはかき消されてしまうのだろうか。

今、私たちは南会津地方が持っている地域資源を皆で活かそうともせず、不作為が故に逆に未来に向かっては大きな無駄遣いをしているような気がしてならない。

地域農林企画室長 田村 万

### 講演会開催のお知らせ

#### ●「南会津地方健全な食生活推進講演会」

- |   |   |   |                                     |             |
|---|---|---|-------------------------------------|-------------|
| 1 | 日 | 時 | 平成14年3月8日(金)                        | 10:00~12:00 |
| 2 | 会 | 場 | 田島町「丸山館」                            |             |
| 3 | 内 | 容 | 基調講演：「食文化の一世紀をたどる・・・この微妙なバランスを伝えたい」 |             |

講師：読売新聞大阪本社論説委員 三木 健二 氏

**入場無料!**

#### ●「南会津地方グリーン・ツーリズム推進大会」

- |   |   |   |  |             |
|---|---|---|--|-------------|
| 1 | 日 | 時 | 平成14年3月14日(木)  | 13:00~15:30 |
| 2 | 会 | 場 | 田島建設会館   |             |
| 3 | 内 | 容 | 基調講演：『学校教育とグリーン・ツーリズムの連携をさぐる<br>～「総合的な学習の時間」が求めるもの、農業農村が育むもの～』（仮題） |             |

講師：(社)全国農協観光協会 清水 寿一 氏

※申込み、詳細については、地域農林企画室 (TEL: 0241-62-5866) までお問い合わせ下さい。



あて先 〒967-0004

福島県南会津郡田島町大字田島字根小屋甲4277-1  
南会津農林事務所 地域農林企画室

TEL 0241-62-5866 FAX 0241-62-5256

E-mail m-nourin@akina.ne.jp

ホームページ <http://www.aff.pref.fukushima.jp/minamiaizu/>

みなさんのご意見ご感想をお寄せください。

タイトル横の写真

冬の前沢集落 (館岩村)



古紙配合率50%再生紙を使用しています



この広報紙は古紙配合率50%再生紙とSOY(大豆油)インキを使用しています。